

環境調査結果のお知らせ

令和8年5月22日9時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、3月9日から3月18日まで赤潮（緑色の着色）を形成していたハプト藻類と同一と考えられる植物プランクトンが最高で1,250 cells/mL確認されました。また、魚類に対して有害なカレニア・ミキモトイが最高で23 cells/mL、シャットネラ属が最高で1 cell/mL、ケラチウム属が最高で88 cells/mL確認されました。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	ハプト藻	ケラチウム 属
A 中学校前 (-) 【09:53】	0	25.2	29.8	9.4	0	0	100	20
	2	24.5	31.9	9.9	0	0	750	22
	5	23.1	32.5	7.1	23	1	550	26
	10	21.9	32.4	5.7	0	0	0	19
	底層 12.5	21.3	32.3	3.7	0	1	0	5
B 光松 (-) 【10:09】	0	24.9	30.8	9.3	0	1	100	15
	2	23.9	31.8	8.6	0	0	750	29
	5	23.3	32.4	7.2	0	0	550	23
	10	22.6	32.6	5.7	0	0	0	31
	底層 17	21.6	32.6	3.0	0	0	0	0
C 大鹿 (-) 【10:19】	0	24.9	23.1	10.0	2	0	250	14
	2	23.8	23.8	8.9	0	0	1,250	22
	5	23.2	24.2	7.6	2	0	300	52
	10	22.7	24.5	5.9	0	0	0	17
	底層 17	21.6	32.6	3.0	0	0	0	0
D 水試小割前 (-) 【10:30】	0	24.1	32.0	7.5	0	0	350	0
	2	23.5	32.1	7.7	0	0	1,250	5
	5	23.1	32.4	7.1	0	0	150	11
	底層 9	22.8	32.7	5.6	0	0	100	88

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3
				浦ノ内湾
カレニア・ミキモトイ	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月
シャットネラ属	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月
ケラチウム属	魚類の餌食い悪化	100 cells/mL	—	—

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 中学校前

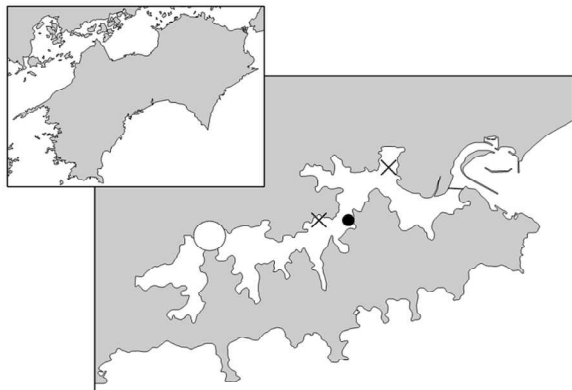
B: 光松

C: 大鹿

D: 水試小割前

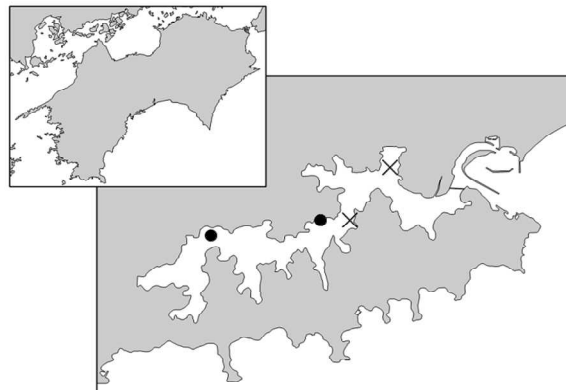
カレニア・ミキモトイ

最大細胞密度



シャットネラ属

最大細胞密度



ハプト藻

最大細胞密度



ケラチウム属

最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ
 円のサイズが大きいくほど、プランクトンの数が多いので注意してください。



注意・警戒を示す円の色
 黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。
 基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

